



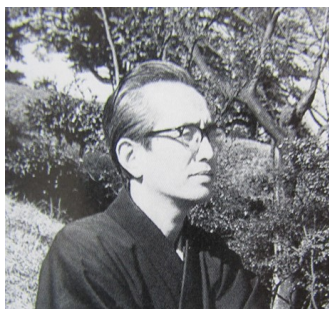
直方南小学校だより

令和7年7月9日(水)
直方市立直方南小学校
No.17 校長 塩田 朋久

直方南小学校のあゆみ⑨ ～校歌～

直方市立直方南小学校 校歌			
作詞	野見山 朱鳥		
作曲	高田 三郎		
一	日出ずる空に	福地山	
校紀の光	身に享けて		
心の玉を	磨かんと		
学ぶ	われらが	南校	
二	永久に流るる	遠賀川	
高鳴る希望	胸に抱き		
智慧の泉を	汲まんとて		
学ぶ	われらが	南校	
三	万朶の桜	咲く日より	
栄えある歴史	誇りつつ		
新しき世を	築かんと		
学ぶ	われらが	南校	

本校の校歌は、69年前の1956年(昭和31年12月9日)に制定されました。それまで校歌はなく、以前お伝えした「行進歌」がその代わりを果たしていたのです。校歌の作詞は、直方市の俳人、**野見山朱鳥(のみやま あすか)**氏。作曲は、国立音楽学校教授の高田三郎氏。以下に、直方市の俳人、野見山朱鳥氏の人物像を紹介します。



野見山朱鳥は1917年(大正6年)、**新町に生まれ、本校を昭和5年度に卒業**。鞍手中学(現在の鞍手高校)を卒業後、画家を志して上京しましたが、やがて病を得て帰郷。闘病生活を送りながら、俳誌「ホトトギス」の高浜虚子に師事、俳句の研鑽を重ねました。無名に近かった朱鳥は、昭和21年、俳誌の「ホトトギス」の巻頭を飾ったことで一気に日本の俳壇に躍り出ることになりました。その後も次々と句集を出し、俳壇に不動の地位を確立しました。昭和45年2月、朱鳥は、孤高な、その52年の生涯を閉じました。

さて、このように全国的に知られた野見山朱鳥が作詞した母校の校歌。**歌詞の解釈**について、対面で朱鳥にインタビューした記録が校長室に飾られています。まとめてみると・・・

- 1 福智山から希望の光がさしてくる 学校のきまりを身に付けて 人格を磨いていこう
- 2 永遠に流れる遠賀川 高い希望を胸に抱き 学問をたくさん学んでいこう
- 3 四月の入学より 南校の長い伝統に誇りをもって 新たな時代を築いていこう

朱鳥は、母校に対して、南小の長い歴史と伝統を大切にするとともに、人としての人格を磨いて次代を担っていく大人になってほしいという願いを込めて作詞したのだと思います。歌詞に込められた思いを大切にしながら、この校歌を歌っていきたいですね。つづく

